第35回子ども郷土研究　最優秀作品

埼玉まで伸びていた？ 備前川

気分

子ども郷土研究は、調査、研究を通して、郷土の歴史や文化について関心を持ち、我が郷土〝ふるさと〟を見つめ、理解を深めることを目的に実施しています。

今回、107点の応募作品の中から最優秀賞に選ばれた作品をご紹介します。（一部省略）

下高津小学校5年
関　梢子（ここ）さん

■研究の動機

二年生の時から土浦の水路、桜川、花室川と調べてきたので、今回は備前川と新川を調べようとしましたが、備前川だけにしました。

■研究の方法

◎管理しているところに問い合わせる

県の土木事務所に備前川の源流について問い合わせてみると、県が管理しているのはイオンの裏までで、そこから上流は市が管理していると言われたので、市役所の道路課に行ってみました。

◎インターネット、図書館で調べる

◎実際に行ってみる

備前川にかかっている橋から、上流と下流の写真を撮り、パソコンで整備しました。

■研究の結果

備前川へ出発！

□三つに分かれていた備前川

地図にあるように備前川は三つに分かれていて、下流が備前川、中流が旧備前川、上流が上備前川です。河口から上流に向かって紹介します。【地図1】

備前川

◇河口から小松橋まで

河口は水郷公園の北側です。ここには大きな水門がありました。なぜあるのかというと、備前川には桜川や花室川と違って堤防がありません。なので、大雨が降って霞ヶ浦の水位が上がると水が逆流してしまい、洪水になってしまうからです。

ここから小松橋までは20ｍぐらいの川幅で水はほとんど流れていませんでした。

◇小松橋から常磐線の鉄橋まで

常磐線の鉄橋で川幅が急に狭くなりました。水の色もすごい緑色でした。

常磐線を越えると川のすぐ近くまで家がびっしり並んでいました。もしも備前川の水があふれたらびしょびしょになってしまうと思いました。

◇備前川橋

備前川橋はなぜか同じ名前で2か所ありました。その一つがこの旧125号線にかかっている橋です。

水面につくぐらい伸びている木がありました。川の周りにはマンションやアパートが並んでいました。

◇桜川の堤防の下

におい橋のちょっと上流から備前川は、桜川と並んで流れていました。途中に木の橋がありました。かなり古そうで、渡るときはどきどきしてしまうほどでした。

◇中家橋からイオンの裏まで

中家橋から川を見たところ、たくさんの鯉がいました。公園の池のようにたくさんいてなぜなのかと思いました。

この辺りになると水がややきれいになりました。ここからは、桜川からだんだんはなれていきます。

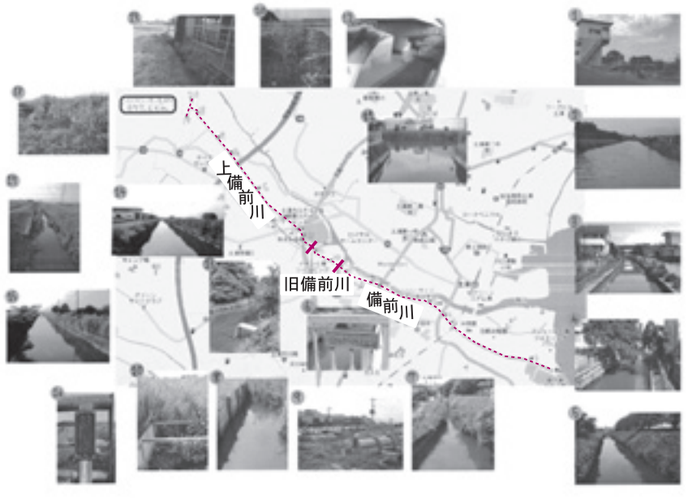
◇旧備前川

イオン横の水門のあるところから、旧備前川です。備前川から、旧備前川になると、川の様子が変わりました。護岸が鉄の坂からコンクリートになったり、川がきれいになったりしました。

◇桜川水門のところ

ここで旧備前川は、終わりです。ここは、桜川へ流れている水路と、備前川が合流しているところです。ここから上流は上備前川です。

備前川【地図1】



川幅が広くなった所

◇備前川橋

バイパスに架かっている橋の名前は富士崎町の橋と同じです。こちらの橋の方がずっと大きいです。

この橋のところは川幅が広くなりました。でも、広かったところは、100ｍぐらいしかありませんでした。緑も多く、魚もよく見えてこっただけ別の川のようです。

◇備前川大橋の先から源流まで

備前川大橋は土浦学園線にかかっている橋でここから上流は直線でまわりは田んぼが広がっていました。川幅は下流の小松橋あたりぐらいあり、護岸がまた変わりました。田んぼのためにある水路のようです。

◇飯田下橋

飯田下橋付近で、いきなり川幅が狭くなりました。川幅が狭くなると、堤防が低くなり、ただの水路のようになってしまいました。そこからやや上流の橋で、カワセミを見つけました。この辺りならカワセミが生活できるのだと思いました。

源流に近づくにつれて、川幅が狭くなってきました。備前川大橋を過ぎてからは、飯田下橋しか名前のある橋がありませんでした。上備前川にかかっている橋の多くは、ガードレールのような欄干でした。花室川や桜川の上流と橋の形は一緒だったけど、花室川や桜川の橋には全部名前がありました。名前がなくて不便ではないのでしょうか？

源流の手前で川は直角に曲がって、南は道路、北側は原っぱのところで突然消えていました。でも、水が流れているのでどこからか湧いているのでしょうか。

（まとめ）

上備前川の周りは田んぼなので、用水路として使われていたのかと思いました。

下流の備前川は排水するための川になっているようです。市役所の方も「備前川は桜川があふれたとき排水しやすいように作られたようです」と言っていました。また途中では水門を通して桜川と繋がっていました。場所によって役割がちがうようです。

□場所によって違う護岸

備前川は場所によって護岸が変わりました。備前川は県が管理していて、それから上流は土浦市が管理しているそうです。それによっても作り方が違うということのようです。

□備前川の名前の由来

私が一番興味をもったのは備前川という名前のことでした。桜川は、岩瀬の桜の名所を通っているので桜川です。花室川も乙戸川も地名です。備前川の「備前」はどういう意味なのでしょう。

備前というのは岡山県の南東部の旧国名です。なのでおかしいなと思い、まず土浦市史を見てみました。そうしたら、1647年に備前川の事が出ていますが、名前の由来の事は書いてありませんでした。

博物館、市役所でも聞いてみましたが、名前の由来は分かりませんでした。

備前堀発見

でも、水戸に備前堀と呼ばれているものを見つけたので行ってみました。備前堀は千波湖の洪水を防ぐために桜川から涸沼川まで12kmを掘られたもので、農業用水にも使われています。

備前堀を見たらとてもびっくりしてしまいました。石の護岸で、橋も石で造ってありました。両側の道も整備されていて、土浦の備前川とは比べられないほどでした。案内板や銅像もありました。案内板を読むと、**伊奈備前守忠次**と言う人が作った事が分かりました。

備前堀

また、備前堀は江戸初期に造られた用水堀だと書いてありました。備前堀と言う名は、伊奈備前守忠次の備前を使ったようです。それなら、土浦の備前川も伊奈備前守忠次の備前を使ったのでしょうか。それで備前守のことを調べてみることにしました。

□伊奈備前守忠次はすごい

伊奈忠次は徳川家康の家来でした。一番驚いた事は、忠次が利根川東せんと、荒川西せんを行ったことです。これは江戸に流れていた利根川を今のように銚子の方へ流す大工事で、私も利根川の鉄橋を渡る時に父に教えられていました。

その頃関東はちょっとの雨が降ると、洪水が起きてしまい大変なところだったので、伊奈忠次以外の家来は関東行きを反対しましたが、伊奈忠次だけが「まだ未開発の土地がたくさんあります。開発すれば徳川家がもっと発展します。」と言ったそうです。それで、家康は関東に行く事にして、伊奈忠次に関東を大開発させました。

現在の埼玉県北足立郡伊奈町小室および鴻巣において、1万石を与えられます。関東の中心で新田開発、河川改修などを行いました。どれだけすごかったかが分かるのは、あちこちに名前が残っているからです。

◎今のつくばみらい市の伊奈村（息子）

◎埼玉県葛飾郡伊奈町

◎埼玉県や群馬県で備前が付く川や堀

◎静岡県や愛知県にも備前と名のつくもの

農民たちから、神仏と言われていたそうです。それまで何百年も誰も改造できなかった大変な土地に、伊奈備前の守が突然現れたら、洪水が減って田んぼがたくさん増えたのです。農民たちからしたら信じられないことだったかもしれません。忠次は神様だと思ったと思います。

伊奈神社（つくばみらい市）

備前が付く川や堀に会いに行こう！【地図2】

埼玉に行って来ました。土浦の辺りとは土地の感じが違いました。埼玉の辺りの土地の特徴は、

◎山がなく、真っ平らで、田んぼが多い

◎堀や川が多い

◎河川の改修の碑や農地改造の碑があちこちにある

つまり、昔から川や土地を改造し続けないとだめだったという事です。江戸時代の初め頃はむちゃくちゃな土地だったのでしょう。他にもそれが分かることがありました。

❑荒川川幅日本一

探検の途中で「川幅日本一」と書いてある看板を見つけました。最初はずーっと原っぱが広がっていたので意味が分かりませんでした。でも、対岸の看板に川幅2537mと書いてあったので、堤防から堤防までの長さの事が分かり、私たちは河川敷を通っていたのだということが分かりました。

❑埼玉は河川割合日本一

吉見町のホームページによると埼玉県の川の面積は県の面積の3・9%で日本一だそうです。どうりで川が多いはずです。それに水との戦いも多くてあたりまえだと思いました。

関東で備前の守に関係する場所【地図2】

❑洪水の印があった

宮代町の備前前堀川と大落古利根川が合流する所にあった碑の柵の所に、「昭和22年の洪水で利根川の堤防がこわれ、赤い線の所まで浸水しました。」と書いてありました。

この地点から利根川は最短距離でも約10kmあります。それに横を流れる古利根川からさらに上まで水が来たのです。私の身長の半分近くです。大変な洪水です。土浦も洪水の町と聞いていたけど、くらべものにならないと思いました。埼玉県や群馬県の人たちは、地獄にいるようなつらさだったと思います。

❑「落」が川の名前

茨城では聞いたことがない「～落（おとし）」というのが川の名前になっていることが多いです。排水の意味でしょうか？「八ケ村落」と後ろに付くものと、古利根川は「大落古利根川」と書いてあります。

❑備前と名のつくものを紹介します

◆備前渠（きょ）

まず、本庄市に備前渠を見に行きました。

備前渠は本庄市久々宇で利根川の水を取水して、岡部町で小山川に合流します。そこまでの長さは3・9kmです。1400ha（ヘクタール）の水田へ用水しています。できた当時は20km以上あったそうです。

備前渠は利根川の堤防の下をくぐっています。トンネルの所に、備前渠治水碑がありました。川は水の量が多くザーザー流れていました。透き通っていて、水草がたくさん生えていました。でも、トンネルの近くには田んぼは無く、畑ばかりでした。

ちょっと進んでいくと、周りに田んぼが一面に広がってきました。途中に堰（せき）がたくさんありました。半分ぐらい来たら、橋に書いてある川の名前が「備前渠」から「備前渠川」に変わりました。だんだん堤防が高くなって小山川に合流しました。

◆備前堀川・備前前堀川

備前堀川は菖蒲町から宮代町和戸まで11km流れています。備前前堀川は久喜から宮代町和戸まで7・82km流れています。備前堀川は、農業排水用水として造ったそうです。上流部は農業用水として使っています。でも、下流部は排水河川として使っているそうです。備前堀川と備前前堀川は近くに流れています。ここも、周りに田んぼが広がっていました。

備前堀川は途中で、八ケ村落と言う川と合流します。八ケ村落は、備前堀川の北側を流れていました。合流する所に備前堀川治水記念碑がたっていました。合流した所からちょっと行くと、工業団地の方から流れてきた、備前前堀川と平行に並びます。

備前前堀川は、八ケ村落の北側から八ケ村落と平行に流れています。備前堀川よりちょっと幅が狭かったです。

2本の川が並んで流れているのはへんでしたが、土浦の桜川と備前川も一部並んで流れているので同じ理由でこう造ったのでしょうか。

◆備前堤

備前堤は桶川市小針領家にある堤防でした。なぜ造ったかというと、綾瀬川と赤堀川を切り離すためです。ですので、赤堀川の水は元荒川に流れるようになり、綾瀬川の源流は備前堤の土手下南側になりました。周りには新田が開発されたそうです。

備前堤は400mぐらい残っています。ここには昔の「お定め杭」が2本残っているはずでした。でも、草がたくさん生えていて、二番杭しか見つからなく、一番杭は草で隠されていました。二番杭の隣に人の名前が書いてある碑がありました。とても古かったです。

今まで紹介した川や堀の他にも、高崎市にも備前とつくものがある事や川向こうに備前島町という町があるのも分かりました。

❑伊奈屋敷跡に行こう！

埼玉県伊奈町にある屋敷跡に行きました。新幹線が通る時に一部がけずられたそうですが、南北750m、東西350mの広い土地です。今の土浦城跡より広いです。こんもりと高台になっていて、今は二の丸跡や陣屋跡が案内板にのっていました。伊奈氏はここに三代まで住んで、そのあと川口市の赤山城（陣屋）に移りました。

伊奈町音頭は「ハァー伊奈の殿様忠次公の（ヤサヨイヤサ）」と始まるそうです。

❑お参りにも行ってきました

鴻巣市の駅の近くにある勝願寺に忠次と忠次の妻、息子の忠治と忠治の妻の墓がありました。震災で一部倒れていました。約400年前のお墓です。三代目からは川口市にあるそうです。

**■まとめ・・・